

平成26年（2014）1月 入域観光客数概況

1月の観光客数は、49万5,100人
対前年（H25）同月比 +6万5,400人、+15.2%
～外国客の年度累計が50万人を突破～

入域状況

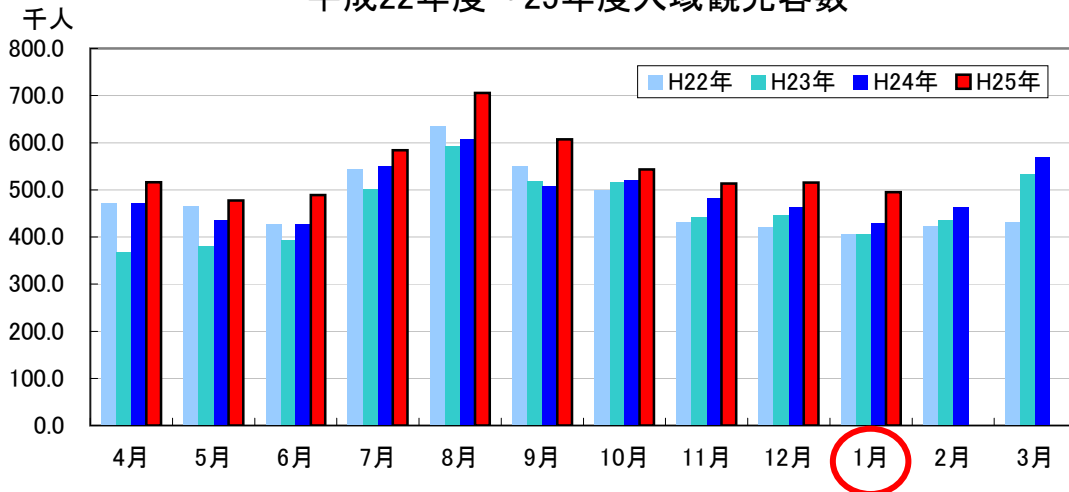
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	447,000 人	414,100 人	+ 32,900人	+ 7.9%	90.3%
外国客	48,100 人	15,600 人	+ 32,500人	+ 208.3%	9.7%
合計	495,100 人	429,700 人	+ 65,400人	+ 15.2%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	447,000 人	414,100 人	+ 32,900人	+ 7.9%	90.9%
外国客	44,500 人	15,300 人	+ 29,200人	+ 190.8%	9.1%
合計	491,500 人	429,400 人	+ 62,100人	+ 14.5%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

1月は、年末から年始にかけての航空便提供座席の増加に加え、下旬の旅行会社主催のイベントの誘客効果もあり、好調に推移した。

2月は、関東～関西地方の天候不良による航空便欠航の影響により旅行キャンセルが懸念されるものの、プロ野球キャンプや学生の春休みで一定の旅行需要があり、好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

1月は、春節を迎えた台湾、香港、中国の主要方面からの旅行需要が高く、好調に推移した。また、旅行シーズンのピークを迎える韓国は、単月で初めて1万人を超える入込となった。

2月は、前年春節があったため伸び率は鈍化するものの、航空路線拡充の影響により沖縄旅行の需要は高く、前年以上に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	226,700 人	206,300 人	+ 20,400人	+ 9.9%	50.7%
関西方面	81,400 人	71,600 人	+ 9,800人	+ 13.7%	18.2%
福岡方面	55,200 人	53,000 人	+ 2,200人	+ 4.2%	12.3%
名古屋	35,700 人	36,800 人	△ 1,100人	△ 3.0%	8.0%
その他	48,000 人	46,400 人	+ 1,600人	+ 3.4%	10.7%
合計	447,000 人	414,100 人	+ 32,900人	+ 7.9%	100.0%

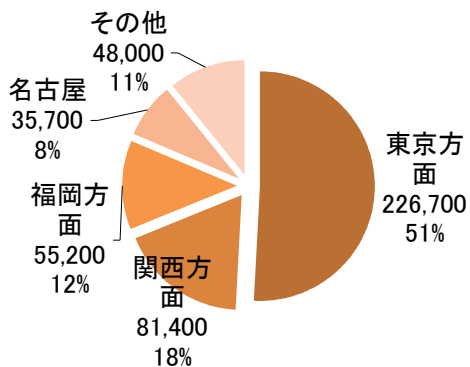
※国内海路客 2,900人を含む(鹿児島:2,900人)

外国客 国籍別入域状況

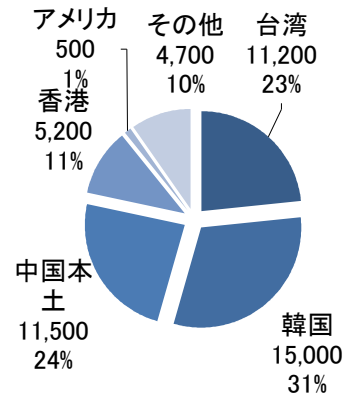
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度 (特例除く)	H25年度 (特例含む)	H24年度 (特例含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	11,200 人	11,200 人	4,100 人	+ 7,100人	+173.2%	23.3%
韓国	15,000 人	15,000 人	7,900 人	+ 7,100人	+89.9%	31.2%
中国本土	10,500 人	11,500 人	500 人	+ 11,000人	+2200.0%	23.9%
香港	5,200 人	5,200 人	1,800 人	+ 3,400人	+188.9%	10.8%
アメリカ	500 人	500 人	300 人	+ 200人	+66.7%	1.0%
その他	2,100 人	4,700 人	1,000 人	+ 3,700人	+370.0%	9.8%
合計	44,500 人	48,100 人	15,600 人	+ 32,500人	+208.3%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	11,200 人	11,200 人	+173.2%	29.8%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	14,900 人	14,900 人	+88.6%	39.6%	100 人	100 人	皆増	1.0%
中国本土	3,800 人	3,800 人	+660.0%	10.1%	6,700 人	7,700 人	皆増	73.3%
香港	5,200 人	5,200 人	+188.9%	13.8%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	500 人	500 人	+66.7%	1.3%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	2,000 人	2,000 人	+185.7%	5.3%	100 人	2,700 人	+800.0%	25.7%
合計	37,600 人	37,600 人	+145.8%	100.0%	6,900 人	10,500 人	+3400.0%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

1月は、年始の提供座席拡充の効果に加え、下旬の旅行会社主催イベントに伴うツアーの販売も好調で、前年を上回った。
2月は、天候不良による航空便欠航の影響が懸念されるものの、プロ野球キャンプ見学や修学旅行、卒業旅行と一定の需要があり、好調に推移する見込み。

大阪

1月は、年始の日並びの良さも影響し、石垣直行便の利用客を中心に全体として好調に推移した。
2月以降、プロ野球キャンプやイベント等の誘客効果により、好調に推移する見込み。石垣島と周辺離島のパッケージ商品の人気が出てきている模様。

福岡

1月は、機材小型化の影響により提供座席数が前年に比べ減っているものの、年始を中心に好調に推移した。
2月は、各旅行会社ともに販売状況が鈍化しているため、低価格商品を販売しているが、現時点では伸び悩んでいる。ビジネス需要が高く、航空券単体の販売状況は好調である様子。

名古屋

1月は、高額な旅行商品に人気が集まったが、月全体を通して入込数は減少した。当地の好調な経済状況を背景に、海外旅行にシフトしている可能性がある。
2月は、プロ野球キャンプ応援ツアーやホエールウォッチングへの関心が高まっているものの、石垣直行便就航から1年が経ち提供座席の拡充に大きな変化がないことから、前年並みに推移するとみられる。

台湾

1月は、引き続き訪日旅行が人気で、春節時期に各地(台北・高雄・台中)からチャーター便が就航した影響により、好調に推移した。
2月は、春節後はやや落ち込むものの、台北-那覇路線の増便及び現地の3連休に合わせての旅行商品の販売により引き続き好調に推移する見込み。

韓国

1月は、ゴルフ旅行の安定した需要に加え、家族旅行やインセンティブ旅行等も好調で、安定して増加。単月で初めて1万人を超える入込。
2月は、定期路線やチャーター便の拡充による誘客効果に加え、プロ野球キャンプのツアー企画など安定した需要もあり、好調に推移する見込み。

中国本土・北京

1月は、春節時期のチャーター便就航はなかったものの、円安や春節時期の旅行需要に支えられ、大幅に増加した。
2月は、春節後の旅行需要の落ち込みがあるものの、前年不調の反動により好調に推移する見込み。旅行形態が団体旅行から個人旅行へ変化し、沖縄旅行も個人旅行が増加している模様。

中国本土・上海

1月は、上海・香港発のクルーズ船寄港が4度、春節時期の航空路線の増便、機材大型化の効果で好調に推移した。
2月は、春節後の旅行動向は鈍くなっているものの、吉祥航空の就航及びクルーズ船寄港により、前年以上に増加する見込み。

香港

1月は、冬場の需要喚起のプロモーションを行った効果もあり、団体旅行及び個人旅行ともに好調に推移した。
2月は、春節後の旅行需要は落ち着くが、低価格商品の販売及びプロモーションが継続され、夏場にかけて堅調に推移していく見込み。現地のウェディングイベントに出展が予定されており、今後のリゾートウェディング需要拡大に期待が持てる。